



社団法人 日本コントラクトブリッジ連盟

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-13 虎ノ門実業会館四谷ビル

TEL(03)3357-3741/FAX(03)3357-7444

http://www.jcbl.or.jp/ E-mail:info@jcbl.or.jp

報道関係各位

2007年7月11日

日本の大学史上初のトランプゲーム授業 順調に開講中

東京大学教養学部全学体験ゼミナール「考える力を養う/コントラクトブリッジ」

多種多様な科目を揃え、学生にさまざまな体験の機会を提供するユニークな授業として知られる東京大学教養学部(駒場キャンパス)の1・2年生を対象にした「全学体験ゼミナール」科目に、日本の大学史上初めてトランプゲーム「コントラクトブリッジ」が採用されている。2006年度夏学期・冬学期及び今年度夏学期に開講した「考える力を養う/コントラクトブリッジ」と題した全13回の授業は、ブリッジの事前知識を持たない学生が終了時にはミニ試合が行なえるレベルまでになることを目標に、出席率、宿題の成績、演習プレイの理解度を評価基準に合格・不合格で判定され、合格すると2単位が取得できる。ブリッジの学習を通して、学生は集中力・記憶力・想像力・論理的思考力などを磨くと共に、パートナーシップが必要なこのゲームではコミュニケーション能力なども学んでいく。

ゼミは今学期を含めて各学期とも、定員を上回る受講希望者がガイダンスに出席、担当教員のロバート・ゲラー教授(同大学大学院理学系研究科)に小論文を提出し、履修を許可された32名が真剣に取り組んでいる。今学期の最終授業は7月16日(月・祝)。仕上げとして、初めて会場を(社)日本コントラクトブリッジ連盟(東京・新宿区)に移し、本格的試合形式でこれまで習得した成果を試すとともに、公式試合会場を見学する特別授業を行なう。特別授業の後には、自由参加の親善ゲームも予定している。

「全学体験ゼミナール」は、東京大学の全ての学部、研究科および研究所の教員が自由にテーマを設定して教養学部で開講するものである。「考える力を育てる/コントラクトブリッジ」担当教員、ロバート・ゲラー教授の専門は地震学で週1回90分のブリッジゼミには本郷の研究室から駒場に通っている。米国出身、在日23年のゲラー教授は、ブリッジのアマチュア選手として全国大会優勝18回のほか、アジア・太平洋ブリッジ選手権、4年に1回開催されるブリッジオリンピックなど大きな国際選手権試合に日本代表として4回出場した実績を持つトッププレイヤーとしても著名で、1990年からは(社)日本コントラクトブリッジ連盟理事を歴任している。教え方が難しいといわれるコントラクトブリッジだが、自身が和訳を監修したコンピューターソフトウェア「ブリッジ入門」/「ブリッジ入門2」を予習・復習用の教材として活用した講義と周到的な事前準備による実践練習、といった独自のカリキュラムを考案し、大学生向けブリッジ講義システム構築に成功した。

世界では推定約1億人の愛好者がいるといわれるブリッジも日本での知名度は未だ囲碁、将棋の比ではない。しかし、東京大学とコントラクトブリッジの縁は古く、同大学ブリッジ部は戦前から多くの優れたブリッジプレイヤーを輩出、政・官・財界リーダーにも多数のブリッジ部OBがいる。「ブリッジは年齢や国籍、社会的地位に関係なくいつでも、誰とでも対等に知力を尽くして楽しめるゲームで、公私ともにさまざまな場面で役に立ってきた。我々の時代は先輩から教わったものだが、今の学生は授業で教われる。うらやましい限り...」という声がOBの間からあがっている。

コントラクトブリッジは、トランプゲームの中で唯一世界共通ルールが確立しているゲームで、由来は古く、約500年前の英国に遡る。以来、少しずつ改良を重ね、1925年に米国の鉄道王ハロルド・ヴァンダービルトによって現在のルールが完成した。「これまでに人間の知力が考え出した最も面白く、最も知的なカードゲーム」(W・サマセット・モーム)と評され、チェスと同様にIOC(国際オリンピック委員会)に加盟しているスポーツ競技 - マインド(頭脳)スポーツ - でもある。(詳細については下記URLを参照ください) 以上

お問い合わせ: **社団法人 日本コントラクトブリッジ連盟** 担当: 高橋 / 野田

Tel:03-3357-3741 Fax:03-3357-7444 E-mail: y-takahashi@jcbl.or.jp / noda@jcbl.or.jp URL: http://www.jcbl.or.jp/